

10月 奨学生会議 @出雲市民病院 ～Cinemeducation～

島根民医連の奨学生会議を、10月29日(木)に出雲市民病院で行いました。今回は、講師を藤原和成先生にお願いし、Cinemeducationという内容で学習をしました。Cinemeducationとは、初めに講師が映画の背景や状況を説明した後に、10分程度、参加者全員でその映画の一場面を見ます。そしてその内容についてディスカッションを行うというものです。

今回は、「MY LIFE マイ・ライフ」と「Peace ピース」という映画についてディスカッションをしました。どちらの映画とも、主人公は命が短く、そのような状況の中で、医師になった時に自分たちは何ができるのだろうか？と考えさせられる内容でした。映画を見た後で、その映画を見てどのようなことを感じたかをまずは出し合い、その後に出た意見を皆で掘り下げていきました。最初の映画は主人公は末期がんで、奥さんのお腹の中には子どもがおり、その子どもに向けて奥さんには内緒でメッセージを残すという内容だったのですが、学生からは、末期がんという問題は患者本人だけでなく、家族全員の問題だと思う。末期がんになった患者の心情すべてを理解できるわけではないが、話を聞いたり、不安を聞くことはできると思うという意見が出ました。また告知するかしないかという問題についても自分自身のことと置き換えて考えました。2本目の映画は、生活保護を受けている身寄りのない高齢の主人公が、末期の肺がんに侵される中で、唯一の生きがいである煙草を吸っているシーンが印象的な映画でした。また主人公は、自己評価がとても低く、通院する病院の医師やヘルパーさんに「早く死ななくては周りに迷惑がかかる。。。」とつぶやくシーンが度々でてきました。ここでは、医師として、先が短い患者に好きな煙草をやめさせるか、やめさせないか？という点について議論しました。また、早く死ななきゃと思っているような患者にどのように接するかという点について、松本翔子先生から「私は、あなたに会えて嬉しいよ、ということ伝えて、あなたの存在は価値があるものなんだよと伝えるように」と学生に伝えていただきました。藤原先生からは生活保護を受けている患者にどのような支援ができるのかということに答えはない。どうすればこの人が幸せになるのか、イメージする力が大切だと学生にアドバイスいただきました。

今回は、出雲の高橋先生、松本賢治先生にも参加いただき、学生も初めてCinemeducationという学習をして、実際にディスカッションをすることで学びを深めることができました。今後も松江と出雲、両院で奨学生会議を行い、たくさんのご意見を吸収して行ってほしいと思います。

◎学生の感想◎

●同じ映像を見てもそれぞれに思うことがあったり、自分だったらどうするか他人の立場だったらどうするか、どんなことができるか想像力をふくらませることができてよかった

- がんの人に対する告知や寿命が短いのに煙草をすうか正解がなくって個々の人にどう対応するのか学べ、先生の立場だったらどうするのか様々な意見が聞けてよかった
- がんの告知をするかしないか、ということや患者さんの生活背景に目を向けてどういう配慮ができるか初めて考える機会となったのでよかった
- 他の人の意見を聞いて新たに自分の意見が生まれたりすることを通して、がんやその周りのことについて深く考えることができてよかった

